

## 1 水稻生育状況 (7月15日現在)

## ●生育状況調査(中苗・ななつぼし)

| 区分  | 草丈<br>(cm) | 葉数<br>(葉) | 茎数<br>(本/m <sup>2</sup> ) | 遅速<br>日数 | 備考<br>※( )は平年比 |
|-----|------------|-----------|---------------------------|----------|----------------|
| R3年 | 67.8       | 10.5      | 621                       | 早3       | 幼形期 7/3(早3)    |
| 平年値 | 59.1       | 10.0      | 592                       |          | 止葉期 7/18(早3)   |
| 差   | +8.7       | +0.5      | +29                       |          |                |

★ゆめぴりかは概ね冷害危険期終了し、一部出穂しているほ場が見られます。ななつぼしは冷害危険期終盤です。

★一般的な生育のななつぼしでは7/20~22頃まで。終了の目安は1株内で約8割が止葉抽出した状態です。

## (1) 冷害危険期終了後の水管理

ア 冷害危険期終了後は直ちに落水し、必要に応じて、短期中干し(3~4日程度)実施する。(根に酸素を供給、地固めにより収穫作業をしやすくするため)

イ 間断灌漑を実施

(水をためておく必要はなく、土壤水分の確保→開花には水分が必要)

## (2) 病虫害対策

ア 7月19日に出された葉いもち発生予測(ブラスタム)では、日高管内新和、三石地区で7/10~7/12にかけて好適日が出現しましたが、その後は好適条件になっていません。すでに散布が行われている所もありますが、防除は計画的に進めてください。

イ いもち病は早期発見が被害を最小限に抑えるポイントです。過去に発生したほ場、風当たりの少ないほ場を中心に見回りを行ってください。

## 2 主要野菜の生育状況

| 作物名               | 生育状況   | 技術対策   |
|-------------------|--|--|
| トマト               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・3、4月定植：6~8段果房収穫中。</li> <li>・5月定植：3段果房収穫中。</li> <li>・6月定植：1段果房収穫始め。</li> </ul> <病虫害>灰色かび病、茎えそ細菌病、日焼け果、軟果の発生が見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベツト内側の葉を中心に摘葉を行い風通しを良くする。</li> <li>・強日照が予想される場合は、しゃ光資材や二重カーテンを利用し、日焼け果等を防止する。</li> <li>・適切な土壤水分確保や肥培管理に努める。</li> </ul> |
| ハウス軟白ねぎ           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・3~4月定植作型収穫中。</li> <li>・アザミウマ類、ハモグリバエ類が一部で見られる</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハウス内外の除草を行う。</li> <li>・収穫、調整残さを整理する。</li> </ul>  |
| アスパラガス<br>(ハウス立茎) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・灰色かび病、斑点病、ジュウシホシクビナガハムシの発生が見られる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハウス周辺の除草を行う。</li> <li>・防除を実施する。</li> </ul>   |
| かぼちゃ              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・一番果肥大期。</li> <li>・黒斑病の発生が見られる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・防除を実施する。</li> </ul>  |

※日高管内でネギアザミウマに対する合成ピレスロイドの抵抗性が確認されました。

今後は合成ピレスロイド系薬剤の連用を避け、ローテーション防除を行いましょう。

### 3 畑 作

(1) 秋まき小麦

品質保持のため収穫開始時の子実水分は35%を上限とします。  
水分測定により収穫時期を判断しましょう。

\*赤かび病の多発したほ場は別刈とし、分けて乾燥調整作業を進めましょう。

(2) ばれいしょ

開花後期は菌核病の発生が懸念されます。また、高温が続くと夏疫病の発生が心配されますので効果のある薬剤を選択してください。夜温が高い日が続くと軟腐病の発生に注意が必要です。収穫を迎えるほ場については塊茎腐敗に効果のある薬剤を選択しましょう。

ほ場を良く観察し、発生状況に注意しながら予防防除に努めましょう。

【発生環境と防除例】

|       | 疫 病  | 軟腐病                        |
|-------|--|----------------------------|
| 発生環境  | 気温：18～20℃多湿  | 気温：25～30℃ 多湿<br>寝苦しい夜が続くとき |
| 未発生ほ場 | グリーンペンコゼブ（夏疫病）<br>フロンサイド（夏疫病、菌核病、塊茎腐敗）<br>ダコニールエース（夏疫病）<br>プロポーズ顆粒水和剤（夏疫病、塊茎腐敗）<br>ランマンフロアブル（塊茎腐敗） | コサイド3000                   |
| 発生ほ場  | ホライズンドライフロアブル<br>ゾーベックエンカンティア  | スターナ水和剤                    |

(3) 豆類

○大豆 ベと病の発生が上位葉に多い場合は防除しましょう。

○小豆 菌核病、灰色かび病の防除は開花始後7～10日目に1回目防除しましょう。

\* 菌核病・灰色かび病防除例：スミレックス水和剤

(4) てんさい

○褐斑病：高温、多湿条件で発生しやすい。連作や前年発生した隣接畑では早期の発生や、多発生の恐れがあるため、定期的な防除を心がけましょう。

○ヨウトウガ、カメノコハムシ：食害を確認後、薬剤を茎葉処理しましょう。

\* てんさいは糖業の技術情報を参考に防除を実施してください

### 4. 牧草生育状況（7月15日現在）

| 作物名        | 生 育 状 況  |                  |                  |      | 適 要             |
|------------|----------|------------------|------------------|------|-----------------|
|            | 項目       | R3年              | 平年               | 遅速日数 |                 |
| 牧草<br>(2番) | 草丈       | 30.1cm           | 26.1cm           | +3   | 生育は平年並みに推移している。 |
| デントコーン     | 草丈<br>葉数 | 155.5cm<br>13.0葉 | 144.1cm<br>12.9葉 | +1   | 生育は平年並みに推移している。 |

牧草の2番草は、穂がほとんど見られないため刈り取りは、1番草刈り後の日数で判断しましょう。①チモシー草地は50日②オーチャードグラス主体草地は45日経過したら、刈り取りを進めましょう。

3番草刈り取る草地は、2番収穫後の追肥が必要です。オーチャードグラスは、8月下旬の施肥で、分けつが促進され次年度以降の生産性が高まります。